

## 2010年度新入生による「学生相談室アンケート」の結果に関する 教育臨床心理学的考察

*Psycho-Educational and Psycho-Clinical Examinations of New Students' Replies  
to the Questionnaire Conducted by Center for Student Counseling (2010)*

佐藤 勝利 *Katsutoshi Sato*

(学生相談室長・兼任学生相談室員・人間発達学部)

粟津 幹子 *Mikiko Awazu*

(非常勤学生相談室員)

林 美由記 *Miyuki Hayashi*

(非常勤学生相談室員)

伊藤 由夏 *Yuka Ito*

(非常勤学生相談室員)

木村美奈子 *Minako Kimura*

(兼任学生相談室員・デザイン学部教養部会)

北岡 智子 *Tomoko Kitaoka*

(非常勤学生相談室員)

菅嶋 康浩 *Yasuhiro Sugajima*

(学生部長・デザイン学部教養部会)

山内恵里子 *Eriko Yamauchi*

(非常勤学生相談室員)

2000年に当時の文部省から出された報告書「大学に於ける学生生活の充実方策について—学生の立場に立った大学づくりを目指して—」(文部省 2000 通称:「廣中レポート」)以来、学生相談は大学教育の一環であるとの位置づけが明確になり、「学生相談は問題のある一部の特別な学生を対象とするのではなく、総ての学生を対象にその人間的な成長を図るものであり、全学的な視野での活動が必要である」という認識が広まった(山下 2010)。

また、現代では、いわゆる少子化による 18 歳人口の著しい減少と年々高まる進学率(2007 年度には大学等の高等教育機関への進学率が初めて 50%を超えており、2009 年度には大学進学率そのものが 50%を超えている)を背景に、多様な学生が大学に入学するようになった。

このため各大学の学生相談室では、カウンセリングや心理療法といった個別面接のみに留まらず、グループカウンセリングや学生の居場所づくり、学生のコミュニティや「キャンパス探鳥会」「足もとを見る会」的な緩いグループづくり等々、多様な支援活動・教育

表1 回答者および回答率

	音楽学部			美術学部				デザイン学部			人間発達学部	名芸大全体	
	演奏	音楽文化創造		絵画	工芸・彫刻	アートエーター	美術文化	3ブロック	ライフスタイル				計
		計	回答率						計	回答率			
入学者数	69	88	157	78	10	34	7	174	7	181	127	594	
回答者数 (%)	65 (94.2)	88 (100.0)	153 (97.5)	70 (89.7)	7 (70.0)	31 (91.2)	7 (100.0)	160 (92.0)	6 (85.7)	166 (91.7)	126 (99.2)	560 (94.3)	

表2 1. これまでの生活について

1-1 高校時代の生活をふり返って全体として

	音楽学部				美術学部				デザイン学部				人間発達学部	名芸大全体
	演奏	音楽文化創造			絵画	工芸・彫刻	アートエーター	美術文化	3ブロック	ライフスタイル		計		
		計	回答率	満足						計	回答率			
満足であった	55.4	48.9	51.6	45.7	57.1	58.1	42.9	49.6	46.9	50.0	47.0	56.3	50.9	
どちらかといえば満足であった	27.7	30.7	29.4	31.4	28.6	29.0	14.3	29.6	33.7	33.3	33.7	34.9	32.0	
どちらともいえない	10.8	15.9	13.7	18.6	0.0	3.2	28.6	13.9	9.4	0.0	9.0	7.1	10.9	
どちらかといえば不満であった	4.6	4.5	4.6	2.9	14.3	9.7	0.0	5.2	6.2	16.7	6.7	0.0	4.3	
不満であった	1.5	0.0	0.7	1.4	0.0	0.0	14.3	1.7	3.8	0.0	3.6	1.6	2.0	
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

1-2 受験生活 (高校時代および浪人) をふり返って

	音楽学部			美術学部				デザイン学部			人間発達学部	名芸大全体	
	演奏	音楽文化創造		絵画	工芸・彫刻	アートエーター	美術文化	3ブロック	ライフスタイル				計
		計	回答率						計	回答率			
満足であった	29.3	22.7	25.4	27.1	28.6	58.1	14.3	34.8	28.7	66.7	30.1	23.0	28.2
どちらかといえば満足であった	44.6	43.2	43.8	27.1	28.6	29.0	28.6	27.8	31.3	0.0	30.1	24.6	32.1
どちらともいえない	21.5	23.9	22.9	35.7	42.9	9.7	14.3	27.8	29.4	33.3	29.6	37.3	29.1
どちらかといえば不満であった	3.1	5.7	4.6	5.7	0.0	3.2	28.6	6.1	8.1	0.0	7.8	9.5	7.0
不満であった	1.5	3.4	2.6	2.9	0.0	0.0	14.3	2.6	2.5	0.0	2.4	4.8	3.0
無回答	0.0	1.1	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5

活動を展開してきている（例えば、名古屋大学学生相談総合センターにおける学生支援GPとしての“メユット活動”：加藤・由良 2010）。

このような中で、本学学生相談室でも、多様化する学生のニーズに応え、より効果的な“支援”ないし“より積極的な働きかけ”を行うために、様々な検討を行ってきた。2006年度からは、こうした検討の中から企画された試みの1つとして、本学の新生が、『どのような“これまでの生活”を送ってきており、どのような“本学への志望から入学まで”を経験してきており、どのような“本学での生活”を希望しており、どのような“現在の心境”をもっているのか』についての実態調査（「相談室アンケート」）を行い、その結果を「教育臨床心理学」ないし「教育現場における心理臨床」の視点から検討しようとしてきた。その概要は既に報告してきた（後藤他 2007、佐藤他 2008、佐藤他 2009、橋本他 2010）が、今年度もほぼ同じ質問項目による調査を行ったので、ここに報告する。

## 調査の概要

- (1) 調査方法：2007年度から使用してきている「相談室アンケート」を用いた質問紙調査（具体的な質問項目については後藤他（2007）および佐藤他（2008）を参照）
- (2) 調査日時：下記日時実施の学生相談室ガイダンスの際に実施した。  
東キャンパス（音楽学部、人間関係学部）；4月9日  
西キャンパス（美術学部、デザイン学部）；4月10日
- (3) 調査対象：2010年度入学生全員（594名）

## 結果と考察

### 1. 調査回収率

調査への回答率（回収率）を表1に示した。大学全体では94.3%の回収率であった。入学初期の、しかもガイダンス時の調査であるので当然のことではあるが、「相談室アンケート」の回収率は、過去5年の間、大学全体で概ね90%～95%の間にあり、本年度も例年通りの良好な回収率を示している。

### 2. これまでの生活について

「高校時代の生活」を振り返っての満足度を表2に示した。全体ではほぼ83%の新生が、「満足であった」「どちらかといえば満足であった」と回答しており、「どちらかといえば不満であった」「不満であった」とする者は、各学部とも、10%を下回っている。これは、調査開始以来（過去5年間）の一貫した傾向である。

ただ、今年度の調査結果は、例年に比して各学部間のバラツキが大きくなっているようであり、〈人間発達学部〉の91.2%の新生が、「高校時代の生活」を「満足であった」「どちらかといえば満足であった」と回答しているのに対して、〈美術学部〉の新生は

表3 2. 本学への志望から入学まで  
2-1 本学への受験を決定したのは

	音楽学部				美術学部				デザイン学部				人間発達 学部	名芸大 全体	
	演奏		音楽文化創造		工芸・彫刻		アートエター		3ブロック		ライフスタイル				計
	演	奏	計	造	絵	画	計	ア	エ	計	ス	タ			
中学時代 (それ以前)	9.2	3.4	5.9	2.9	0.0	3.2	0.0	3.2	0.0	1.2	0.0	1.2	0.8	2.7	
高校1・2年	44.6	34.1	38.5	28.6	14.3	32.3	0.0	32.3	0.0	32.5	50.0	33.1	14.3	29.1	
高校3年	30.9	54.5	44.4	54.3	85.7	54.8	71.4	57.4	59.4	59.4	50.0	59.0	70.6	57.3	
浪人時代	4.6	3.4	3.9	11.4	0.0	3.2	0.0	3.2	0.0	2.5	0.0	2.5	2.4	3.9	
願書を出す頃	4.6	2.3	3.3	2.9	0.0	3.2	28.6	4.3	4.4	4.4	0.0	4.2	8.7	5.0	
一旦就職してから	3.1	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	
他大学に在学中	1.5	2.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.9	
その他・無回答	1.5	0.0	0.7	0.0	0.0	3.2	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5	

2-2 本学の今の学部 (学科) を選んだ理由は (3つ以内)

	音楽学部				美術学部				デザイン学部				人間発達 学部	名芸大 全体	
	演奏		音楽文化創造		工芸・彫刻		アートエター		3ブロック		ライフスタイル				計
	演	奏	計	造	絵	画	計	ア	エ	計	ス	タ			
社会的評価が高いから	4.6	5.7	5.2	0.0	0.0	3.2	0.0	0.9	6.9	0.0	0.0	6.6	4.8	4.6	
指導を受けたい教員がいるので	70.8	18.2	40.5	7.1	28.6	12.9	0.0	9.6	3.8	16.7	4.2	4.2	4.0	15.2	
就職・将来を考えると	32.3	56.8	46.4	32.9	28.6	3.2	71.4	27.0	54.4	50.0	50.0	54.2	77.8	51.8	
本学(学部)の特長が自分の性格に合っているから	36.9	52.3	45.8	41.4	57.1	8.39	42.9	53.9	46.9	50.0	50.0	47.0	34.9	45.4	
合格の可能性を考えて	23.1	19.3	20.9	41.4	42.9	16.1	57.1	35.7	28.8	33.3	28.9	28.9	34.1	29.3	
他大学を受験したが入試の結果で	9.2	8.0	8.5	32.9	0.0	3.2	28.6	22.6	24.4	0.0	0.0	23.5	14.3	17.1	
通学距離、家庭の事情で	15.4	13.6	14.4	30.0	42.9	6.5	14.3	23.5	20.0	0.0	0.0	19.3	27.0	20.5	
本学に身近な出身者がいるから	27.7	19.6	22.9	7.1	0.0	12.5	0.0	7.3	5.6	0.0	0.0	5.4	10.3	11.8	
何となく	0.0	1.1	0.7	5.7	14.3	0.0	0.0	4.3	3.8	16.7	0.0	4.2	4.8	3.4	
その他・無回答	4.6	2.3	3.3	2.9	14.3	12.5	14.3	7.0	4.4	0.0	0.0	4.2	4.8	0.4	

2-3 本学 (学部) に入学して、あなたの気分は

	音楽学部				美術学部				デザイン学部				人間発達 学部	名芸大 全体	
	演奏		音楽文化創造		工芸・彫刻		アートエター		3ブロック		ライフスタイル				計
	演	奏	計	造	絵	画	計	ア	エ	計	ス	タ			
満足である	58.5	45.5	50.9	34.3	14.3	74.2	42.9	44.3	41.9	66.7	42.8	42.8	38.9	44.5	
どちらかといえば満足である	30.8	38.6	35.3	24.3	71.4	16.1	28.6	25.2	33.1	16.7	32.5	32.5	39.7	33.4	
どちらともいえない	4.6	13.6	9.8	20.0	14.3	6.5	14.3	15.7	17.5	16.7	17.5	17.5	17.5	15.0	
満足ではないが、このままで頑張りたい	3.1	0.0	1.3	12.9	0.0	3.2	14.3	9.6	4.4	0.0	4.2	4.2	4.0	4.5	
できれば転学部(転学科)したい	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	
できれば他大学を再受験したい	1.5	2.3	2.0	5.7	0.0	0.0	0.0	3.5	1.9	0.0	1.8	1.8	0.0	1.8	
その他・無回答	1.5	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.6	0.6	0.0	0.5	

表4 3. 本学での生活や勉学について  
3-1 履修の方法や勉学の仕方について

	音楽学部				美術学部				デザイン学部			人間発達 学部	大 体 全 名
	演 奏	音楽文化創造	計	絵 画	工芸・彫刻	アークイーター	美術文化	計	3プロック	ライフスタイル	計		
よくわかる	1.5	2.3	2.0	5.7	0.0	0.0	0.0	3.5	3.1	0.0	3.0	0.8	2.3
だいたいわかる	33.8	43.2	39.2	34.3	14.3	45.2	0.0	33.9	50.6	5.0	50.6	15.9	36.3
少しわからないところがある	50.9	43.2	46.4	48.6	71.4	45.2	85.7	51.3	39.4	5.0	39.8	48.4	45.9
ほとんどわからず不安である	12.3	11.3	11.7	10.0	14.3	9.7	14.3	10.4	6.9	0.0	6.6	34.1	15.0
無回答	1.5	0.0	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5

3-2 勉学に対する意欲は

	音楽学部				美術学部				デザイン学部			人間発達 学部	大 体 全 名
	演 奏	音楽文化創造	計	絵 画	工芸・彫刻	アークイーター	美術文化	計	3プロック	ライフスタイル	計		
充分ある	70.8	69.4	69.9	57.1	57.1	77.4	85.7	64.3	67.5	66.7	67.5	60.3	65.9
少しある	16.9	25.0	21.6	34.3	28.6	16.1	14.3	27.8	26.9	16.7	26.5	32.5	26.8
どちらともいえない	4.6	4.5	4.6	7.1	14.3	3.2	0.0	6.1	3.1	16.7	3.6	4.8	4.6
あまりない	4.6	1.1	2.6	1.4	0.0	3.2	0.0	1.7	1.9	0.0	1.8	2.4	2.1
まったくない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	3.1	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	0.5

3-3 (学内・学外を問わず) 現在、親しい友人が

	音楽学部				美術学部				デザイン学部			人間発達 学部	大 体 全 名
	演 奏	音楽文化創造	計	絵 画	工芸・彫刻	アークイーター	美術文化	計	3プロック	ライフスタイル	計		
同性にも異性にもいる	64.6	53.4	58.1	32.9	42.9	80.6	14.3	45.2	40.6	50.0	41.0	37.3	45.7
同性のみいる	29.3	41.0	35.9	52.9	57.1	16.1	85.7	45.2	52.5	50.0	52.4	59.5	48.0
異性のみいる	0.0	1.1	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.9	1.3	0.0	1.2	0.8	0.9
ほとんどいない	1.5	3.4	2.6	11.4	0.0	0.0	0.0	7.0	5.0	0.0	4.8	2.4	4.1
その他	3.1	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
無回答	1.5	0.0	0.7	1.4	0.0	3.2	0.0	1.7	0.6	0.0	0.6	0.0	0.7

79.2%に留まっている。なお、詳細に各学部内の数値に目を向ければ、〈美術学部〉の〔美術文化〕への入学者のそれは57.2%と他の学部・コースよりも低くなっている。また、このコースには「不満であった」とする者が14.3%示されている。同様に〈デザイン学部〉の〔ライフスタイル〕への入学者には「どちらかといえば不満であった」とする者が16.7%含まれている。〔美術文化〕、〔ライフスタイル〕の2つのコースは、母数が小さいために、一義的な意味づけは避けるべきであろうが、相談室としては注意をしておきたいところではある。

一方、「受験生活」を振り返っての満足度については、「満足であった」もしくは「どちらかといえば満足であった」と回答した者は66.3%であり、これも例年とほぼ同じくらいの割合となっている。しかしながら細部を見ると、〈人間発達学部〉の新入生では、「受験生活」に対して「満足であった」もしくは「どちらかといえば満足であった」と回答している者が今年度は50%を割っており、「不満であった」「どちらかといえば不満であった」とする者が13.3%を占めている。また、〈美術学部〉の〔アートクリエイター〕の学生の満足度は低く、「満足であった」もしくは「どちらかといえば満足であった」とする者と「不満であった」「どちらかといえば不満であった」とする者が双方とも40%を超えて拮抗している。

このように、本学の新入生はそれなりに満足度の高い高校時代を送ってきてはいるものの、学部、コースによっては、必ずしも受験生活には満足してはこなかった者が少なからず含まれている様子である。これらの結果が意味するところ(例えば不本意な入学など)は、この調査からだけでは十分には見えてこないが、相談室としては10%程度の新入生が、「どちらか」といって不満であったあるいは「不満であった」高校時代の生活を送ってきたとしている点と併せて注目しておきたいと思う。

### 3. 本学への志望から入学まで

「本学への受験を決定した時期」、「学部・学科の選択理由」ならびに「本学入学後の気分」について尋ねた結果を表3に示した。

「本学への受験を決定した時期」としては、例年と同じように、「願書を出す頃」を含めた高校時代とする者が90%を超えているが、さらに細かく検討してみると、学部・学科ないしコース間で特徴的な違いが見られている。

すなわち、〈音楽学部〉では43.4%の者が(とりわけ〔演奏学科〕では53.8%の者が)中学時代を含めた高校1・2年生までの間に本学への志望を固めており、〈美術学部〉〈デザイン学部〉にあっては30%~34%の者が同様の段階で受験意志を固めている。これに対して、〈人間発達学部〉では80%近くが高校3年~「願書を出す頃」に本学への受験を決めている。これらの結果は、芸術系学部と教育系学部の特質の差を端的に反映したものと考えられる。

「学部・学科の選択理由」（複数選択＝3項目以内）は、大学全体としては、「就職・将来を考えて」が第1位（51.8%、例年は50%程度）、次いで「本学の特徴が自分の性格にあっているから」が第2位（45.4%、例年は40%程度）として選択され、以下「合格の可能性を考えて」（29.3% 例年は25%程度）、「通学距離・家庭の事情で」（20.5% 例年は20%程度）、「他大学を受験したが入試の結果で」（17.1%、例年は15%程度）という順で選択されており、過去5年の間、選択順位・選択率ともに大きな変化はない。

概ね、本学学生は「就職・将来を考えて」、「本学の特徴が自分の性格にあって」おり、「合格の可能性を考えて」本学を受験しているといえよう。

しかしながら、学部ごと、あるいは学科・コースごとの違いを検討すると、〈音楽学部〉では40.5%（とりわけ演奏学科では70.8%）の者が、「指導を受けたい教員がいるので」を選択しているのに対して、人間発達学部では、80%近い者が「就職・将来を考えて」を挙げている。さらに、例年のことではあるが、〈美術学部〉の〔アートクリエイター〕にあつては、「本学の特徴が自分の性格にあっているから」を選択する者が際だって多く（83.9%）なっている。また、〈美術学部〉と〈デザイン学部〉では、本学受験理由を「他大学を受験したが入試の結果で」としている者が22～23%含まれている。さらに、〈美術学部〉（とりわけ〔絵画〕コース）ならびに〈人間発達学部〉では「通学距離、家庭の事情で」を挙げるものが比較的多く、〈音楽学部〉では「本学に身近な出身者がいるから」を挙げるものが4人に1人（22%～27%）程度存在している。

ここにも、学部間の専門の違いと全国的にあまり多くはない芸術系学部と同種の学部学科が県内外にいくつも存在する教員養成系学部の違いが反映しているように思われる。

次に、「本学（学部）入学後の気分」について尋ねた結果を表3の2-3に示した。昨年同様全体としては78%程度の者が「満足である」もしくは「どちらかといえば満足である」と答えており、本学への入学を満足とする者の割合はかなり高い水準にあるといえる。

しかしながら、一方で、「満足ではないが、このまま頑張りたい」とする者が4.5%、「できることなら他大学を再受験したい、転学部したい」とするものがわずかながら存在する。それらの者が総て“不本意入学者”であるか否かは不明であるが、相談室としては、今後、彼らがどのようにして本学の風土に適應していくのかを注意深く見守る必要があるように思われる。

#### 4. 本学での生活について

本学での生活にかかわる「履修の仕方や勉強の仕方について」の理解度や不安、「勉強に対する意欲」「親しい友人」の有無について尋ねた結果を表4に示した。

まず、「履修の仕方や勉強の仕方について」は、「よく分かる」「だいたい分かる」とする者は36.3%であり、60%以上の者が「少し分からないところがある」「ほとんど分からず不安である」としている。この結果は例年に比べて若干の改善の方向を示してはいるが、

表5 4. 現在の心境について  
4-1 自分の性格・健康・家族・対人関係・学生生活・生き方などについて悩んだりすることが

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部	名芸大全体		
	演奏	音楽文化創造		工芸・彫刻	アートエター-		3ブロック	ライフスタイル					
		計	絵画		計	美術文化		計					
大いにある	15.4	26.1	21.6	30.0	57.1	32.3	42.9	33.0	23.1	33.3	23.5	17.5	23.6
少しある	61.5	47.8	53.6	52.9	28.6	54.8	57.1	52.2	66.3	16.7	64.5	64.3	58.9
ない	23.1	25.0	24.1	17.1	14.3	9.7	0.0	13.9	10.6	50.0	12.0	17.5	17.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	1.1	0.7	0.0	0.0	3.2	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5

4-3 それらについて相談できる人が身近に

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部	名芸大全体		
	演奏	音楽文化創造		工芸・彫刻	アートエター-		3ブロック	ライフスタイル					
		計	絵画		計	美術文化		計					
いる	81.5	75.0	77.8	71.4	85.7	83.9	71.4	75.7	78.1	83.3	78.3	81.7	78.4
いない	10.8	11.4	11.1	17.1	14.3	6.5	28.6	14.8	15.0	16.7	15.1	8.7	12.5
その他	1.5	1.1	1.3	1.4	0.0	6.5	0.0	2.6	1.9	0.0	1.8	3.2	2.1
無回答	6.2	12.5	9.8	10.0	0.0	3.2	0.0	7.0	5.0	0.0	4.8	6.3	7.0

4-4 悩みや課題について、学生相談室を利用したいと思いますか

	音楽学部			美術学部			デザイン学部			人間発達学部	名芸大全体		
	演奏	音楽文化創造		工芸・彫刻	アートエター-		3ブロック	ライフスタイル					
		計	絵画		計	美術文化		計					
すぐにも相談に行きたい	1.5	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.8	0.8	0.9
近いうちに相談に行きたい	1.5	1.1	1.3	2.9	14.3	0.0	0.0	2.6	3.8	0.0	3.6	2.4	2.5
いつか相談に行きたい	7.7	20.5	15.0	14.3	14.3	19.4	14.3	15.7	18.7	50.0	19.9	18.3	17.3
必要を感じたら行きたい	66.3	52.3	58.1	58.6	57.1	67.7	71.4	61.7	52.5	50.0	52.4	62.7	58.2
今のところ必要と感じない	21.5	26.1	24.2	24.3	14.3	12.9	14.3	20.0	20.6	0.0	19.9	15.1	20.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0	0.2
無回答	1.5	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.8	0.8	0.9



そして、入学後の指導や情報の提供によって、今後これらの不安は順次解消するものと思われるが、特定の学部・コースによっては「履修の仕方や勉強の仕方について」80%を超える者が不安を抱えており（とりわけ人間発達学部では3人に1人が「ほとんど分らず不安である」としており）新入生に対する一層のきめ細かな就学上のガイダンスが望まれる。

次に、「勉強に対する意欲」では、いずれの学部にあっても60%を超える者が、「十分ある」と回答しており（これに「少しある」とする者を加えると90%を超えている。）「あまりない」とする者は2.1%に過ぎず、新入生はかなりの勉強意欲を持って入学してきているといえる。

また、「親しい友人」の有無については、何らかの形でそれをもっているとする者（「同性にも異性にもいる」、「同性のみいる」、「異性のみいる」とする者）が、今年度についても、どの学部にあっても90%を超えていた。

しかし、一方で4.1%、学科・コースによっては10%を超える者が、「（親しい友人は）ほとんどいない」と答えている。これは、ある意味では重大な問題を孕んでいる。前青年期～青年期の重要な発達課題とされるchumやpeerの獲得の不十全さが懸念され、これらの学生の入学後の生活を注意深く見ていく必要があるものと思われる。

## 5. 現在の心境について

「自分の性格・健康・家族・対人関係・学生生活・生き方などについて悩んだりすること」の有無、それらを相談することのできる人の有無および学生相談室の利用の意向を尋ねた結果を表5に示した。

「自分の性格・健康・家族・対人関係・学生生活・生き方などについて悩んだりすること」が有るとする者（「大いにある」および「少しある」）の合計は例年とほぼ同じ程度の82.5%を占めている。これは既に2007年度報告（佐藤他 2008）に触れているように青年期にある者のデータとしては珍しいことではない。

また、それらの悩みを相談できる人の有無については、「いる」とする者が78.4%、「いない」とする者が12.5%となっており、残りは「その他」「無回答」である。これも例年の結果とほぼ同じである。

悩みを相談できる人の有無が精神健康に及ぼす影響は今さら論じるまでもないであろう。学生相談室は、相談できる人が「いない」と答えた者が気楽に来談できる場となり、彼らの、心を開くことのできる人物を見出していく場を提供できたらと考えている。

なお、学生相談室の利用についての意向を尋ねたところ、「すぐにも相談に行きたい」「近いうちに相談に行きたい」とする者は3.4%であり、「必要を感じたら相談に行きたい」とする者が58.2%を占めていた。

本学学生相談室では、スクリーニングテストや「相談室アンケート」を基にした「呼び出し面接」等は行ってきてはいないが、「すぐにも相談に行きたい」「近いうちに相談に行きたい」とする者に対しては、夏休み前に“必要があればいつでもどうぞ”といった意味

を込めて、さらりと入学後の様子を尋ねる“様子伺い”の文書を出している。しかしながら、それが自発来談に結びつくことはこれまでには極めてまれであった。あるいはもう少し積極的に学生への来談呼びかけを考える必要があるのかも知れない。

## 結語

われわれは、今後の学生相談室のより有効な支援活動を展開するための基礎データを蓄積することに力点を置いて、2006年度から新入生を対象とする「学生相談室アンケート」を行ってきた。過去5年間のデータからは、本学の新入生は、高校生活に相応の満足感を持ち、学部によってはかなり早い段階から本学を志望し、高い勉学意欲を有していることが示された。また、様々な悩みを有しながら、多くの学生はそれらを相談することのできる友人を有していた。これらは本学学生が精神的に健康で、落ち着いた豊かな学習環境を得るためのリソースを十分もっていることを伺わせた。しかしながら、一方では、多くの者が大学での履修や勉学の仕方が十分には分からずに不安を抱いていた。また、不本意入学に近い形で入学した者や悩みを相談することのできる友人をもたない者も散見された。そしてこれらの傾向は、ここ5年の間に変わることはほとんどなかった。

既に述べたように、今日の学生相談室には、かつてのようなカウンセリングや心理療法といった個別面接のみに留まらず、「総ての学生を対象にその人間的な成長を図るための、全学的な視野での」多様な支援活動・教育活動が求められるようになった。本学学生相談室でも「Welcome to 名芸」といった新入生のための緩やかな啓発的グループを始めてはいるが、今後はさらに新しく効果的な企画を産み出していく必要があるであろう。

これまでの「学生相談室アンケート」は本学学生（新入生）の特質を素描しており、これからのわれわれの活動の有益な資料となったように思われる。

## 文献

- 後藤倬男・橋本裕明・粟津幹子・加藤友希恵・橋本容子・北岡智子 2007 新入生による「学生相談室アンケート」の結果に関する教育臨床心理学的考察 名古屋芸術大学研究紀要 28 97-105
- 橋本容子・北岡智子・菅嶋康浩・佐藤勝利・後藤倬男・粟津幹子 2010 2009年度新入生による「学生相談室アンケート」の結果に関する教育臨床心理学的考察 名古屋芸術大学研究紀要 31 355-364
- 加藤大樹・由良麻衣子 2010 大学の潜在的支援力を活用した学生支援の試み—専属オーガナイザーの視点からの検討— 学生相談学研究 31 25-36
- 文部省 2000 大学に於ける学生生活の充実方策について—学生の立場に立った大学づくりを目指して—
- 佐藤勝利・後藤倬男・粟津幹子・加藤友希恵・橋本容子・北岡智子 2008 2007年度新入生による「学生相談室アンケート」の結果に関する教育臨床心理学的考察 名古屋芸術大学研究紀要 29 165-174
- 佐藤勝利・後藤倬男・粟津幹子・橋本容子・北岡智子 2009 2008年度新入生による「学生相談室アンケート」の結果に関する教育臨床心理学的考察 名古屋芸術大学研究紀要 30 131-140
- 山下親子 2010 2009年度の学生相談界の動向 学生相談学研究 31 61-75